

ふるさと再発見⑨



私が、明治村職員として奉職したのは昭和23年です。職員数はおよそ20人弱だったかと思えます。新制の小・中学校が発足した翌年で、戦後の復興の胎動が始まった頃でした。昭和28年に町村合併促進法が公布され、昭和30年4月に駒寄村と明治村が合併し吉岡村が誕生しました。

当時は電話が一本あっただけで、渋川の県の出先に電話するのも大変でした。まず、交換手を呼び出して電話先を予約することから始め、だいぶたってから電話が通じました。今のように公用車などはありませんでしたので、県の出先での会議には自転車で出かけました。合併当時の役場の組織機構は緩やかで、若い職員は何でもやらされました。

役場は、1階が事務室で、2階の中央の部屋が議会の部屋でした。議会は事務局もなく、総務課が議会を担当し、議員皆さんは弁当を食べるのも休憩するのも小さな議席でした。

「旧吉岡村役場庁舎の思い出」

役場庁舎のある下野田の町並みを紹介すると、鬼ヶ橋交差点あたりから郵便局あたりまで、時計屋、パーマ屋、写真館、そして劇場となんでもありの商店街で、「下野田銀座」と言っていた人もいました。路面電車（昭和29年廃止）も走っていて、停車場もあり当時の下野田はにぎやかでした。

昭和30年に消防団、33年に有線放送、国民健康保険制度が35年に発足し、事務が複雑化してきたのはこの頃からでした。旧役場の最後のほうは職員数も増え、役場の南に消防器具置場を併設した事務棟とプレハブ小屋を増築し対応していました。役場の屋根の形状が緩やかな曲線だったためか、雨漏りもありましたが、それも今はいい思い出です。

馬場 國夫さん（下野田）
（参考：昭和26年 明治村議22人 駒寄村議18人）

編集後記

早いもので水田の稚苗もだいぶ色濃く育つ中、6月18日認定農業者の方、農業委員の皆さんのご指導と学校側のご理解により駒寄小・明治小5年生の田植え体験学習が実施されました。泥んこになりながら、小さな手で真剣に植えている子ども達に、お米の大切さを知ると同時に、大人になつてから大きな思い出、そして、大きな力になることを祈っています。

議会だよりも早いもので今回が100号という節目になりました。皆さまに寄稿していただいている、まちの散歩道などについても、皆さんの無い意見をお寄せください。広報委員会も、常任委員会として7人で発足をいたしました。これから読みやすく親しまれる議会だよりを目指します。

（石倉 實）

編集委員

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 石倉 實 |
| 副委員長 | 飯島 寛 |
| 委員 | 馬場 俊彦 |
| 委員 | 栗田 周二 |
| 委員 | 山畑 祐男 |
| 委員 | 平形 重男 |
| 委員 | 金谷 重男 |